

**令和 6 年度  
福祉教育活動報告書**

発行 坂井市社会福祉協議会

# はじめに

本書は、この1年間で行われた学校の総合の時間における福祉教育学習の内容をまとめたものです。福祉は、私たちの生活に密接に関わる重要なテーマであり、社会の変化に伴い、その意義や必要性はますます高まっています。特に、少子高齢化の進行、多様な価値観の共存、地域コミュニティの変化など、現代社会のさまざまな課題に対応するためには、福祉教育を通じた理解と実践が不可欠です。

福祉教育とは、単に知識を学ぶことにとどまらず、人と人とのつながりを大切に、相互理解や共生の精神を育むことを目的とした学びの場です。本書では、携わった社協職員が各学校のイチオシ学習を紹介するとともに、より多くの方々が福祉教育活動に関心を持ち、積極的に取り組むきっかけとなることを願っています。

本書が、福祉教育活動を推進するうえでの一助となり、誰もが安心して暮らせる社会の実現につながることを心より願っております。



学校



社協



みんな

# もくじ

## イントロダクション

坂井市社会福祉協議会について、「学校×社協」で福祉教育・・・1

### まるおか

鳴鹿小学校	2
磯部小学校	3
高椋小学校	4
明章小学校	5
平章小学校	6
長畝小学校	7
丸岡中学校	8
丸岡南中学校	9

### はるえ

春江小学校	10
春江東小学校	11
春江西小学校	12
大石小学校	13
春江中学校	14

### さかい

東十郷小学校	15
兵庫小学校	16
木部小学校	17
大関小学校	18
坂井中学校	19

**みくに**

三国西小学校 . . . . . 20

三国南小学校 . . . . . 21

三国北小学校 . . . . . 22

雄島小学校 . . . . . 23

加戸小学校 . . . . . 24

**学校独自の取り組み**

三国中学校 . . . . . 25

# イントロダクション

## 坂井市社会福祉協議会について

社会福祉協議会(通称：社協)は、民間の社会福祉活動を推進することを目的とした営利を目的としない民間組織です。

坂井市社協では、「みんなが主役 ふだんの暮らしのしあわせづくり」を目指して、地域で暮らす皆様のほか、様々な福祉関係機関の参加・協力のもと、様々な地域活動をおこなっています。

## 「学校×社協」で福祉教育

社協では学校での総合的な学習の時間で学校の子ども達を対象に地域のなかの様々な立場な人とつながり、学び合うこと(=共育)を目指しています。

福祉(ふくし)をより身近なもの「ふだんの暮らしのしあわせづくり」として考え、学校の先生と一緒に、取り組んでいます。

### ① 実施依頼

### ② 打合せ(目標決め)

### ③ 授業(体験・講座)

### ④ まとめ・ふりかえり

# 鳴鹿小学校

## 基本情報

クラス数 1クラス (14名)

全体人数 計14名

## 目的・ねらい

高齢者と同居の子どもが多いため自分のおじいちゃん・おばあちゃんの生きがいつくりのお手伝いができるようになる。

## 令和6年度の取組み

実施日	仔細	内容
12月13日	★	社協によるふくし講座 社協によるインスタントシニア体験
1月15日		ボランティアグループによる点字体験
2月21日		当事者団体に車いすバスケット体験

ワーカー  
イチオシ!

### ふくし講座・インスタントシニア体験



福祉講座では、高齢者が元気に地域活動に励んでいる様子やよくある困りごとについて学びました。「高齢者は何歳から?」「みんな腰が痛い?」などの質問のやりとりもあり、高齢者のイメージをより明確にすることができました。また、インスタントシニア体験では腕や足に装具を装着しながら読書や階段昇降を行い、高齢者の生活を身近に感じることができました。サポートの仕方についても障害物までの距離や階段の段数を細かく伝えるなどの工夫もみられました。



しっかりコミュニケーションをとってその人の困りごとに寄り添うことが大事だと気付くことができた!!

## 先生からの感想

今回、ふくしについての学習を始めるにあたり、社協職員の方に福祉講座をお願いしました。鳴鹿地区の高齢者についての具体的な現状等を教えてくださったことで、子供も教員も、身近なこととして捉えることができたと思います。その後のインスタントシニア体験では、日常生活における動作を入れて校内をペアで歩きました。当事者としての動きづらさを感じたとともに、そばに寄り添う側の思いやりの大切さも学ぶことができ、とても良い経験になりました。

# 磯部小学校

## 基本情報

クラス数 2クラス (1クラス人数 32名)

全体人数 計64名

## 目的・ねらい

当事者のことを理解し、自発的に地域の課題に気づけるようになる。

## 令和6年度の取組み

実施日	仔細	内容
6月25日		社協によるインスタントシニア体験 社協によるアイマスク体験
7月2日		当事者(身体障がい)によるバリアフリー講座
7月5日		子育てお母さんによるお話
9月初旬		バリアフリー探索
10月2日	★	福祉教育発表会(バリアフリー探索報告会)
11月9日		磯部小学校150周年記念事業でのバリアフリー探索発表



## 福祉教育発表会(バリアフリー探索報告会)



9月に地域で子どもたちが「バリアフリー探索」を行い、自分たちの住む町のバリアを探して、その解消方法について考えました。その結果を地域の大人たちに向けて発表しました。子どもたちは、車いす利用者や視覚障がい者にとっての課題を見つけ、「神社の段差は危険なのでスロープを設置した方が良い」「信号機に音響装置を付けると、視覚障がい者も安全に渡れる」といった提案を行いました。これらの提案に対し、地域の大人たちからは「スロープや音響装置を設置することで、別の人が不便になってしまうこともあるかもしれない」といった意見もあり、さまざまな視点の学びを得る機会となりました。



バリアフリーの取り組みは単に設備を増やすだけでなく、地域全体で「ふくし」を考えることが大事だと気付くことができた！

## 先生からの感想

ふくしとは、「ふだんのくらしをしあわせづくり」だということに、最初はピンときていなかった様子でしたが、学習が進むにつれ、障がいについて理解を深めたり、自分たちができることを考えたりしていました。バリアフリー探索報告会に向けての活動では、誰もが安心して暮らすことのできる磯部地区になるためにはどうしたらいいか、様々な立場の人に寄り添って考えることができました。

# 高棕小学校

## 基本情報

クラス数 2クラス (1クラス人数 33・32名)

全体人数 計 60名

## 目的・ねらい

様々な人々と触れ合い、人それぞれの価値観を理解する。また、これまでの自分を振り返り、相手の立場になって考え、自分たちに何ができるか伝え合う機会を目指す。

## 令和6年度の取組み

実施日	仔細	内容
9月25日		車いす当事者による講和 社協による車いす体験 社協によるインスタントシニア体験
10月30日	★	当事者団体(身体障がい)によるフライングディスク体験
11月20日		認知症キャラバンメイトによる認知症サポーター養成講座

ワーカー  
イチオシ!

## フライングディスク体験



坂井市身体障害者協会春江支部の方々を招き、フライングディスク体験を行いました。ただ立って投げるだけでなく、車いすに乗った状態や、車いす+アイマスクを装着した状態で投げるなど、さまざまなシチュエーションを体験しました。実際に体験してみると、「普段のように力が入らない」「距離感がつかみにくい」といった新たな気づきが生まれました。また、講師の方から「どのようなサポートをするとより安全に、安心して楽しめるのか」について学び、相手の立場に立った支援の大切さを実感しました。



さまざまな立場に立って体験することで、互いを思いやる心が育まれた!

## 先生からの感想

インスタントシニア体験では、高齢者との関わり方やサポートの仕方について、「ゆっくりと大きな声で声掛けをしたい」「肩を支えてゆっくり歩くとよい」など、高齢者の立場を考えて関わることの大切さについての気づきがありました。手話講座時は、障がいを抱えながらも健常者と同じような暮らし方であることに驚き、障がいへの印象が変化したようでした。その後、実際に手話を体験し「手話をもっと覚えたい」「手話が分からないときは筆談で助けてほしい」という前向きな声があがりました。障がい者スポーツ体験のアイマスクをしての投法は、鈴の音を聞きながら投げました。どの立場の人も、やり方を工夫すれば楽しむことができると実感していました。当事者の方たちから、実際に話を聞くことで、調べるだけでは分からない日々の工夫を知ることができて、とても良かったと思いました。

# 明章小学校

## 基本情報

クラス数 1クラス (11名)

全体人数 計 11名

## 目的・ねらい

様々な立場の人と交流して当事者を理解することができる。また、当事者の悩み事に寄り添いながら生きがいづくりに携われるようになる。

## 令和6年度の取組み

実施日	仔細	内容
9月10日		当事者（身体障がい）によるお話 社協による車いす体験
9月19日		社協によるインスタントシニア体験
9月26日		地域の高齢者通所施設（なごみの家）について学ぶ
10月24日	★	地域の高齢者通所施設の利用者との交流
11月12日		ボランティアグループによる点字体験

ワーカー  
イチオシ！

## 地域と的高齢者との交流会



交流に向けて、子どもたちは、事前にインスタントシニア体験を通じて高齢者の気持ちを学びました。その後、身近にある高齢者通所施設「なごみの家」のスタッフとともに、施設の利用者を喜ばせるためには何ができるかを考える作戦会議を行いました。「みんなが楽しめることってなんだろう？」と話し合いを重ねた結果、モルックやビンゴを楽しんでもらうことに決定。さらに、サプライズで合唱を披露することも企画しました。当日は、子どもたちが自ら準備し、積極的に参加。施設の利用者だけでなく、子どもたち自身も一緒に楽しむことができました。この経験を通じて、子どもたちは「相手を思いやること」の大切さを実感しました。



普段、交わる機会がなかったが今回を機に顔がみえる関係に！  
この出会いが子ども達の高齢者のイメージを変えた！

## 先生からの感想

身近に「なごみの家」という高齢者のつどいの場があることや、明章地区の高齢者の数など、地域の現状を知ることができたことが良かったです。高齢者の方との交流を企画するにあたり、子どもは、高齢者の方と一緒に活動できそうな遊びを考えたり、ルールを簡単にしたりするなどアイデアを出し合い、積極的に計画する様子が見られました。当日の交流では、子どもは高齢者の方に喜んでもらったことに感動し、また交流をしたいという感想をもっていました。

# 平章小学校

## 基本情報

クラス数 2クラス (1クラス人数 21名)

全体人数 計42名

## 目的・ねらい

当事者理解を進め、思いやりの気持ちを育む。また地域で困った当事者と出会ったときに声をかけられるようになる。

## 令和6年度の取組み

実施日	仔細	内容
9月18日		当事者（身体障がい）によるお話 社協による車いす体験
9月26日		当事者団体によるポッチャ体験
10月3日		当事者（聴覚障がい）による手話体験、 ボランティアグループによる点字体験
10月8日	★	社協によるインスタントシニア体験、アイマスク体験
10月9日		認知症キャラバンメイトによる認知症サポーター養成講座

ワーカー

イチオシ!

## インスタントシニア体験・アイマスク体験



思いやりの気持ちを育むために、「インスタントシニア体験」と「アイマスク体験」を行いました。これらの体験を通じて、高齢者や視覚障がいの気持ちを理解し、どのような支援が必要かを学びました。インスタントシニア体験では、身体に重りをつけたり、視界を制限するゴーグルを装着したりすることで、階段の昇降や手洗いなどの動作がどれほど大変になるかを体感しました。また、アイマスク体験では、視覚を遮った状態で音楽室の楽器を鳴らすなどの活動を行い、普段とは異なる感覚の中で生活することの難しさを実感しました。



当事者の気持ちを汲み取りながら、場面に応じて支援の方法を自発的に変えていく姿勢が◎。当事者の声に耳を傾ける大事さに気づくキッカケとなった!

## 先生からの感想

今年度の福祉学習は、ふくしへの理解を深めるために、多岐にわたり、体験活動に力を入れて行いました。様々な体験活動を通して、子ども達は、いろいろな立場の人がいることを知り、だれとでも思いやりをもって関わろうとする意識を高めることができました。また、体験活動や調べ活動を通して、子どもからは、困っている人がいたら、進んで関わってほしいという声が聞かれました。子どもの意見を聞き、みんなが幸せに生きていける社会を目指して、子どもだけでなく、大人を含めた社会全体で、「困っている人がいたら、自分から声をかける・優しく接する」という意識を高めていく必要があると改めて感じました。

# 長畝小学校

## 基本情報

クラス数 2クラス (1クラス人数 23・22名)

全体人数 計 45名

## 目的・ねらい

一人一人の生き方を否定しないようなキッカケづくりを目指す。そのために、実際に当事者の暮らしの体験や、その環境下にある住民の話聞き、我がごとの気持ちを育む。

## 令和6年度の取組み

実施日	仔細	内容
9月18日	★	当事者（身体障がい）によるお話
10月23日		社協職員による車いす体験 社協職員によるインスタントシニア体験
11月7日		当事者団体（聴覚障がい）による手話体験

ワーカー  
イチオシ!

## 当事者（身体障がい）によるお話



バリアフリー探索の一環として、子どもたちは車いす利用者を講師に迎え、日常生活の様子や大変なことについて学びました。

講師の方は、着替えやお風呂、買い物など、日常の動作をどのように工夫しているのかを具体的に話されました。子どもたちは興味津々で、「どうやって服を着るの?」「お風呂に入るときはどうするの?」など、次々と質問を投げかけました。普段なかなか聞くことのできない話に触れ、子どもたちは「当たり前のことでも、工夫しないとできないことがあるんだ」と新たな視点をもつことができました。



車いすを利用している人も、同じように地域で生活しており、趣味を楽しんでいることが分かった。地域で困っている人を見かけた際に、「自分ができる範囲で助けてあげよう」といった思いに変化した!

## 先生からの感想

「だれにでも優しい丸岡」をテーマに、総合的な学習の時間で福祉について学び、様々な福祉体験を行いました。困っている人の立場を理解し、自分にできることは何か考え、手助けしていこうという思いやりの心を育てることができました。車いす体験では、声かけを通して、相手の立場を考えることの大切さを学ぶことができました。

# 丸岡中学校

## 基本情報

クラス数 5クラス (1クラス人数 30名)

全体人数 計 150名

## 目的・ねらい

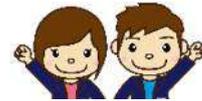
ユニバーサルスポーツ体験学習をとおして障がい理解を図る。また、地域の高齢者とスポーツを通して交流を深め、顔がみえる関係になることができる。

## 令和6年度の取組み

実施日	仔細	内容
5月31日	★	車いす当事者による講話 ボッチャ体験 当事者団体による卓球バレー体験 スティックリング体験 フライングディスク体験



## 当事者との交流



生徒たちは、車いす生活を送る方を招き、普段の生活や趣味活動についてお話を聞きました。講師の方は、日常の工夫や楽しみについて語り、「障がいがあっても、自分らしく幸せに暮らしている」ということを伝えてくれました。生徒たちはその話を聞き、「障がいのある方も、自分たちと同じ地域で生きる大切な仲間なんだ」と実感しました。その後、生徒たちはそれぞれ希望するユニバーサルスポーツを体験しました。スポーツを通じて、障がいの有無にかかわらず、誰もが一緒に楽しめることを学びました。また、「障がい＝不幸ではない」という意識を深めるきっかけにもなりました。この体験を通じて、互いを尊重し合うことの大切さを学び、共に生きる社会について考える機会となりました。



普段なじみのないユニバーサルスポーツを体験することで、一部の  
人だけではなく本当の意味で【皆にとっての「ふくし」】を考えるキ  
ッカケとなった！

## 先生からの感想

今回のユニバーサルスポーツ体験を通して、生徒からは障害の有無や年齢にかかわらずできるスポーツがあることを知り、そのようなスポーツをみんなで楽しみたいという声がありました。共に喜び、共に悔しがり、スポーツの楽しさを誰とでも共有できることを学べたのは大きな経験だと思いました。また、みんなが楽しむために、相手の気持ちに立って行動する場面も見ることができ、大変有意義な学習となりました。

# 丸岡南中学校

## 基本情報

クラス数 4 クラス (1クラス人数 22・23名)

全体人数 計名 90 名

## 目的・ねらい

交流や講座を通じて当事者の暮らしを知り、「地域共生」がなぜ重要なのかを理解したい。

## 令和6年度の取組み

実施日	仔細	内容
9月20日	★	つぐみ福祉会によるお話 社協職員による車いす体験 インスタントシニア体験 アイマスク体験 当事者団体による卓球バレー体験 当事者団体によるフライングディスク体験 当事者団体による手話講座 ボランティアグループによる点字体験

ワーカー  
イチオシ!

## 当事者との交流



中学校の近くに事業所を構える「つぐみ福祉会」より、障がいを抱えた当事者の普段の暮らしについてお話を伺いました。講師は、日常生活での工夫や楽しみ、生きがいについて語り、生徒たちは「障がいがあっても、自分らしく暮らしている姿」を知ることができました。その後、高齢者や障がい者の視点に立つさまざまな体験を行いました。体験を通じて、「どのようなことが不便なのか」「どのように寄り添えば安心してもらえるのか」を考える機会となり、また、「その人にとっての生きがいは何か」を知ることができました。



支援とは単なる手助けではなく、「相手の気持ちに寄り添い、共に楽しむことが大切である」ことに気づきました。

## 先生からの感想

今回、目を隠すことや車いすを操作することなど、実際に体験することを通して生徒たちは障がいを持っている人が身近にたくさんいることを実感し、共生社会をつくるために、何ができるかを考えるようになりました。生徒からは「障がいを持っている人は身近にいると実感しました。だからこそ、障がいのある方のために、自分は何ができるかを考え、実行して行きたいと思いました。また、障がいのある方が困っていたら、どのように声をかけると不安ではなくなるかを考えていきたいです」という声も出てきました。

# 春江小学校

## 基本情報

クラス数 3クラス (1クラス人数 33・31名)

全体人数 計95名

## 目的・ねらい

自分たちが住んでいる地域の高齢者、障がい者を含む人々、地域について関心を持ち「ふくし」を他人事ではなく我が事として捉えてもらう。子ども自身に自分たちでできる「ふくし」について考える。



## 令和6年度の取組み

実施日	仔細	内容
6月6日		社協によるふくし・高齢・障がいに関する講義
7月2日		高齢者との交流会
10月3日		当事者（身体障がい）によるお話 社協によるアイマスク体験 社協による車いす体験
2月7日	★	福祉教育発表会（子どもによるプレゼン発表）

★  
ワーカー  
イチオシ!

## 福祉教育発表会



一年間の福祉教育の集大成として、子どもは坂井市をより良くするための提案をまとめ、福祉共育サポーターや市役所・社協職員に向けてプレゼン発表を行いました。子どもは、日々の生活の中で感じたことや体験したことをもとに、地域のみんなが安心して暮らせる街にするためのアイデアを提案しました。プレゼン発表では、自分たちの発表だけでなく、他の子どもの発表も聞くことで新たな気付きや学びをさらに深める場にもなりました。



考えたことを地域の大人や他の子どもに向けて発表することで「ふくし」を我が事として捉え、実際に行動へと繋げることができた!

## 先生からの感想

地域の方々と関わりながら学習を進めたことで、「ふくし」がより身近なものと感じている子どもが増えました。この学びを活かし「自分たちにできることは何か」を考え、行動できる力をつけていきたいと思います。

# 春江東小学校

## 基本情報

クラス数 2クラス (1クラス人数 31・30名)

全体人数 計61名

## 目的・ねらい

福祉共育を通して、思いやりの心を育てふくしに対する関心を高めると共に、住みやすい街づくりのために自分たちにできることは何かを考え行動にうつせることを目指す。認知症講座への参加を通して、認知症についての理解を深める。

## 令和6年度の取組み

実施日	仔細	内容
9月19日		当事者（聴覚障がい）のお話し、手話講座
10月31日		社協による車いす・アイマスク体験
11月14日	★	認知症キャラバンメイトによる認知症サポーター養成講座
11月26日		当事者（視覚障がい）によるお話

ワーカー  
イチオシ!

## 認知症サポーター養成講座



認知症サポーター養成講座では、春江地域包括支援センターの方から、認知症の症状について学びました。積極的に手を挙げて質問をする子どもが多く、対話し、理解を深めていました。講座後、認知症の方に対してどのような対応を行うと良いのかをグループごとに話し合い、代表者が前に出て実演を交えながら発表を行い、意見を共有しました。発表では、「物忘れが見られる方には紙に書いて物事を伝える。」などの意見が挙がり、認知症の特性を理解し相手に寄り添った柔軟な対応について学びました。



認知症理解の促進に！学習だけで終わらず当事者と共生していくための方法を自分自身が考えることで、「ふくし」を我が事として捉える！

## 先生からの感想

子どもにとって、当初「ふくし」という言葉は身近なものではありませんでした。しかし、「ふだんのくらしのしあわせ」を合言葉に、ふくしについて学んでいく中で自分たちがたくさんの方に支えられていることに気付き、また自分にもできることがたくさんあることを知ることができたようです。当事者の方のお話を聞いたり、実際に体験したりすることは、子どもの大きな学びとなりました。みんながしあわせに暮らせるように、思いやりの気持ちをこれからも大切にしたいと思います。

# 春江西小学校

## 基本情報

クラス数 2クラス (1クラス人数 26・24名)

全体人数 計50名

## 目的・ねらい

すべての人がふくしの対象であり、障がい者・高齢者・子ども・健常者などといった区別をせずにふくしを我が事として捉えてもらう。



## 令和6年度の取組み

実施日	仔細	内容
10月18日		ボランティア体験(とんぼの会、フルーツポンチ)
11月6日 11月27日	★	高齢者との交流会
11月14日		ボランティアグループによる点字体験
11月22日		社協によるアイマスク体験



## 高齢者との交流会



「ボランティアとは弱い立場の人を助けること」といった捉え方ではなく、「普段の関わりから始まること」を子どもに感じて欲しいという想いでボランティアを体験するプログラムを実施しました。体験では、地域のボランティア活動者から折り紙や性別・年齢に関係なく皆が楽しめる踊りを教えて頂きました。

その後、練習を重ね、地域の高齢者の居場所『ほっとカフェ』でダンスの発表と折り紙のプレゼントを行い、参加者と交流しました。グループごとにお話しをしたり、皆で一緒にイッチョライ節を踊ったりするなど様々な形で交流することができました。子どもたちは「自分たちが地域の方たちを楽しませるんだ!」という意識を持って積極的に交流していました。



**体験や交流を通して、相手を思いやる気持ちの育成に!!**

**地域の方々と顔見知りの関係に!!**

## 先生からの感想

今年度は、障がい当事者の方や地域の方たちとの交流という体験学習プログラムを通して、子どもたちは「ふくし」を身近に感じ、日常の中で当たり前に関心をもって周りの子どもたちと接することができるようになりました。

# 大石小学校

## 基本情報

クラス数 2クラス  
(1クラス人数 17・20名)  
全体人数 計37名



## 目的・ねらい

自分たちが普段体験出来ないことを体験し、相手の立場になり、物事を考える力を養い視野を広げる。福祉体験学習を通して、他者理解、思いやりの心を育てる。

## 令和6年度の取組み

実施日	仔細	内容
10月18日		社協によるインスタントシニア体験
11月22日	★	当事者団体（身体障がい）によるフライングディスク体験
12月6日		当事者（視覚障がい）のお話



## フライングディスク体験



春江町身体障害者福祉協会の会員から、立った状態、車いすに乗った状態、アイマスクを付けた状態の3パターンでフライングディスクを教えてもらいました。

車いすでの体験では、ただ、車いすに乗ってディスクを投げるのではなく、順番を待っている子どもが当事者役の子どもを車いすに乗せ、ディスクを手渡しするなどのサポートを行い、体験を行いながら車いすの介助方法を学びました。アイマスクを付けての体験では、「どこに向かって投げれば良いのか分からない。難しい。」といった声も多く挙がりました。当事者講師が介助のポイントを声掛けすると、介助が上手くなる子どもが増えたことが印象的でした。障がいの有無に関わらず誰もが楽しめるユニバーサルスポーツの良さを感じながらも、楽しく「ふくし」について学ぶことができました。



フライングディスクを3つの立場から体験することで、障がい当事者の視点に立ち、当事者の気持ちを考える機会となる！

## 先生からの感想

福祉体験学習を通して、車いすに乗っている方に対してできる事や手助けの方法などについて学ぶことができました。また、自分たちも福祉教育を通して子どもたちと一緒に学ぶことができました。福祉教育のまとめとして、学んだことを3年生や保護者に向けて発表し、多くの方に向けて発信していきます。

# 春江中学校

## 基本情報

クラス数 7クラス  
(1クラス33・32名)  
全体人数 計229名



## 目的・ねらい

ふくしとはなにかを学び、生徒がふくしの視点で自分たちの住んでいる町について考える事ができるようになる。

## 令和6年度の取組み

実施日	仔細	内容
10月2日		社協によるふくしについての講座
11月5日	★	当事者団体による卓球バレー体験 企業によるボッチャ体験
11月6日		ボランティアグループによる点字体験



## 卓球バレー・ボッチャ体験



障がいの有無にかかわらず、誰もが楽しめるユニバーサルスポーツである卓球バレーとボッチャの体験を行いました。

地域の協会会員や歩行訓練士の資格を持つ講師からルールや戦略について教えてもらい、講師の方も交えながら試合形式で体験を行いました。地域の実践者との交流も生まれ、どの試合も大いに盛り上がり白熱した様子でした。体験後には「実際に協会に入会してみたい!」「もっと体験したかった」という声も上がり、体験を通してユニバーサルスポーツに興味をもった子どもが多かったことが印象的でした。体験を通して、ユニバーサルスポーツの楽しさを感じ、さらに楽しく「ふくし」について学ぶことが出来ました。



**試合形式で体験することで、障がいのある方がプレーする上での困難点を発見することができる! またユニバーサルスポーツの楽しさにも気づき、「ふくし」に対する関心が生まれる!**

## 先生からの感想

ふくしに対する興味をどのように生徒たちに持たせることができるかなと悩んでいました。しかし、社協の方の講演を聞いたりユニバーサルスポーツを体験したりしたこと、生徒自身が「ふくしってすごく自分たちの生活に身近なものなんだな」と感じる事ができるようになりました。

# 東十郷小学校

## 基本情報

クラス数 2 クラス  
(1 クラス人数 33 名)  
全体人数 計 66 名



## 目的・ねらい

視覚障がいや聴覚障がいを持つ方たちの生活について、障がい者スポーツ等の体験を行ったうえで当事者からの話を聞き、学習成果の発表をすることにより理解を深める。

## 令和6年度の取組み

実施日	仔細	内容
10月4日		当事者団体による卓球バレー体験 当事者団体によるフライングディスク体験
11月1日	★	当事者（視覚・聴覚障がい）によるお話

ワーカー

イチオシ!

当事者（視覚・聴覚障がい）によるお話



障がいへの理解を深めるため、視覚障がいについて学ぶクラスと聴覚障がいについて学ぶクラスに分かれて、それぞれ体験を行いました。聴覚障がいについて学ぶクラスでは、インスタントシニア体験を通して聞こえづらさを体験した後、講師の方から手話の方法や聴覚障がい者の方々の生活について学びました。この体験を通じて、当事者の気持ちに寄り添い、理解を深めることができました。視覚障がいについて学ぶクラスでは、盲導犬と暮らす当事者の方を講師に迎え、盲導犬との生活についての講演を受けました。盲導犬を直接見る機会はめったにないため、興味津々で話を聞いていました。また、盲導犬への適切な声掛けの方法や、盲導犬の存在によって助かったことなどについて説明を受け、視覚障がいへの理解を深める貴重な機会となりました。



正しく障がいを理解し、

当事者のサポートの方法について具体的にイメージができた!

## 先生からの感想

パラスポーツ体験は、子どもが楽しむだけでなく、だれもが笑顔でくらせる社会にするためにはどうするとよいかを考えるきっかけとなりました。また、実際に障がいのある方を招いての出前授業では、「知りたい」気持ちを引き出すことができました。

# 兵庫小学校

## 基本情報

クラス数 1クラス (15名)

全体人数 計 15名

## 目的・ねらい

4年生総合の時間「やさしさ見つけたい」を学習するにあたり、共に助け合い支え合うことの大切さを知って、思いやりの心や奉仕の心を育む。

## 令和6年度の取組み

実施日	仔杓	内容
7月4日		社協による赤い羽根共同募金講座
7月12日		校外にてバリアフリー探検
10月25日	★	校外での赤い羽根共同募金活動
11月7日		行政による心のバリアフリー教室
11月17日		福祉教育発表会(手話) 校外での赤い羽根共同募金活動
11月26日		校外での赤い羽根共同募金活動

ワーカー  
イチオシ!

## 赤い羽根共同募金活動



三国町のショッピングセンター「イーザ」にて赤い羽根共同募金活動を行いました。子どもたちは大きな声で「募金にご協力お願いいたします。」と声掛けをしていたことで、非常に活気がありました。

また募金の使い道についての説明をするボードを作り赤い羽根共同募金の理解を深める機会となり、社会貢献を通して地域と学校のつながりが強まりました。



募金活動を通して子供たちが地域とのつながり、  
みんなで地域を元気にするという意識の醸成になった!!

## 先生からの感想

募金活動にて「子ども食堂に使われます」や「公園の遊具に使われます」など、使い道が伝わるようなボードを作成しました。また、声の出し方や言葉遣いに注意し、協力してもらえなかった場合でも「またおねがいします。」としっかりと声掛けをすることなどを、事前にみんなで話し合い、本番にのぞみました。当日は、一人一人が自信をもって、大きな声を出し、意欲的に募金活動ができたと思います。「またボランティアをしたい。」「募金をしようと思う。」と、次に繋がる活動になったと感じています。

# 木部小学校

## 基本情報

クラス数 1クラス (13名)

全体人数 計13名

## 目的・ねらい

ふくしへの関心や理解を深め、ふくし(ふだんのくらしのしあわせづくり)の心を育む。

## 令和6年度の実践

実施日	方針	内容
10月15日		社協による共生社会についての出前授業
10月23日		社協によるアイマスク体験
11月15日	★	社協によるインスタントシニア体験
11月21日		ボランティアグループによる卓球バレー

ワーカー

イチオシ!

## インスタントシニア体験



インスタントシニアセットを用いて、歩きづらさ・視野が狭くなることでの見えづらさを体験しました。また、買い物をしてお金を数える体験をした際には子どもたちは小銭を見つけるのに一苦労していました。体験後、振り返り時に福祉共育サポーターが自分たちの周りの高齢者の生活を話し、施設に入所している高齢者の方もいれば、地域の居場所やシニアクラブ連合会で活動することで元気に生活する方もたくさんいることなど、さまざまな地域の高齢者の生活を知る機会となりました。



高齢者が身近な存在に!

元気な高齢者とふれあいたい気持ちが高まった!!

## 先生からの感想

高齢者の方の不安な気持ちが分かり、安心してもらえる工夫について考えることができました。また、普段できることも思うようにできなったり、不安を感じたりすることを知ることができました。子どもたち自身も「困っている人がいたら進んで声をかけよう」、「困っている人のために自分にできることは何かを考えよう」という思いをもつことができました。

# 大関小学校

## 基本情報

クラス数 1クラス (21名)

全体人数 計21名

## 目的・ねらい

高齢者や障がいを持つ方たちの生活について、体験や当事者等からの話を聞くこと、交流等により関心を持ち理解を深める。

## 令和6年度の取組み

実施日	仔細	内容
10月10日		インスタントシニアセットを用いた学校探索
11月8日		ボランティアグループによる点字体験
11月12日		社協によるアイマスク体験
11月15日		当事者（視覚障がい）によるお話
12月10日	★	障がい者施設訪問・交流会



### 障がい者との交流



障がい者支援を行っているスマイルネットワークさかいの施設に訪問し、事業所のことやどのような利用者の方たちが施設を利用しているのか、またどのような生活を送っているのかについて詳しく話を聞きました。説明の後は、実際に施設を見学し、利用者の方々の生活の様子を間近で知ることができました。その後のミュージックケアでは、利用者の方々と直接関わりながら音楽を通じた交流を行いました。最初は利用者の方々との関わりに戸惑う様子も見られましたが、次第に打ち解け、当事者の気持ちになって考えたり、寄り添ったりする心が育まれていきました。



施設の利用者と直接関わることで、利用者の気持ちに寄り添い、共に生きる意識を育むことができた!

## 先生からの感想

スマイルネットワークさかいは地域の施設ということ、また学校の横に放課後デイの施設があるということもあり、利用者の方とも顔を合わせる機会もあるので理解教育を行った。どの活動にも意欲的に取り組み当事者の気持ちになることや寄り添う気持ちが芽生えた。障害があっても自分たちと一緒にであるという感想を持つなど共生の気持ちを抱くことができた。

# 坂井中学校



## 基本情報

クラス数 5 クラス  
(1クラス人数 26・27名)  
全体人数 計 132名

## 目的・ねらい

高齢者や障害者の方たちにとっての暮らしやすい地域とは何かについて考える機会をつくる。

## 令和6年度の取組み

実施日	仔細	内容
12月11日		当事者団体による卓球バレー体験
		当事者団体によるフライングディスク体験
	★	当事者（身体障がい）によるボッチャ体験
		シニアクラブ連合会によるスティックリング体験
		ボランティアグループによる点字体験



## ボッチャ体験



はじめに、講師から地域での暮らしについての説明があり、実際に使用している機材なども紹介されました。子どもたちは、障がいの有無に関わらずスポーツを楽しめることに強い関心を示し、真剣に話を聞いていました。説明の後は、実際にボッチャを体験し、試合形式でゲームが行われました。講師が採点方法やルールを分かりやすく説明しながら進めたことで、子どもたちもすぐに競技に親しむことができました。また、試合を通して自然と生徒と講師の距離が縮まり、互いに声を掛け合いながらプレーする姿が見られました。



**国体当事者選手と関わり、障がいとの共生に。  
支援相手ではなく、活躍する当事者と共生する気持ちの育成に！**

## 先生からの感想

この体験会を通して、「ふくし」というものを生徒がより身近に考えるようになったと思います。ただ知らなかっただけで、思っていた以上に興味をもっている生徒がいたことに気づかされました。実際に体験したり、お話を聞いたりする大切さを実感しました。今後も継続的にそのような機会を設けていきたいです。また、地域の方の生の声をお聞きすることで、自分の住む町の課題を改善したいという気持ちや、良さを発信したいという気持ちが強まっている様子を感じました。

# 三国西小学校

## 基本情報

クラス数 1クラス (11名)

全体人数 計11名



## 目的・ねらい

福祉体験を通じて、思いやりの心を育てる。

## 令和6年度の取組み

実施日	仔細	内容
6月18日		ボランティアグループによる点字体験
10月4日		当事者(視覚障がい)によるお話
12月11日	★	社協によるアイマスク体験
1月28日		当事者団体による卓球バレー・フライングディスク体験



## アイマスク体験



アイマスク体験では、靴の脱ぎ履きや点字の本を読む、猫の絵を描く、手洗いをするなど、さまざまな日常生活動作を体験できるコースを用意しました。この体験を通して、目が見えないことの怖さや不自由さを感じるだけではなく、サポート役の声かけや助けがあれば安心して行動できることを学びました。また、ユニバーサルデザインについての説明や視覚障がい当事者の作品紹介も行い、理解を深める機会となりました。



少人数のクラスのため、子どもたちの意見・感想を聞きながら体験できた。ユニバーサルデザインや視覚障がい者当事者の作品について、実際に見て・触れて・感じた。

## 先生からの感想

今まで子どもたちは「困っている人を助けないといけない」という意識はあるが、実際どうやって助ければいいのかまではイメージができていませんでした。アイマスク体験では、視覚障がい者の困っている事や生活の不自由さを感じることができました。そして、障がいのある方に対して、声掛けの仕方や具体的なサポート方法を知ることができました。子どもたちは、誰かの助けがあったり、道具を使用することで障がいの有無関係なく活動ができると気付いたことが大きな学びでした。

# 三国南小学校

## 基本情報

クラス数 1クラス (32名)

全体人数 計32名



## 目的・ねらい

さまざまな立場の人の体験をお互いにすることで、相手の気持ちに立って考えられる心を育む。当事者から話をきくことで我が事として興味関心を深める。また、当事者の方と共に体験をする時間を過ごすことでつながりを深める。

## 令和6年度の取組み

実施日	仔細	内容
7月10日		ボランティアグループによる点字体験
9月25日		当事者団体による手話体験
10月1日	★	当事者(身体障がい)によるお話・車いす体験
10月10日		当事者団体によるボッチャ・卓球バレー体験
10月29日		社協によるアイマスク体験
11月22日		当事者(視覚障がい)による話
12月上旬		校内での赤い羽根共同募金活動
12月下旬		三国町内の高齢者に年賀状送付
1月28日		社協によるインスタントシニア体験

ワーカー

イチオシ!

## 車いす体験・当事者(身体障がい)によるお話

車いす体験では、高い所にある物を取る、床に落ちている物を拾う、段差を上り下りするなどの体験を通じて、子どもたちは車いすでの生活の不自由さや大変さを実感していました。一方で、介助する人の声かけや少しの手助けがあることで、安心して車いすに乗ることができると学びました。また、当事者持参の競技用車いすを実際に試乗することで、車いすマラソンに興味をもち、楽しみながら学ぶ機会となりました。



車いすの使用方法を学ぶだけでなく、車いす競技を知ること、競技に対して興味をもち、当事者を尊重する気持ちを育めた!

## 先生からの感想

様々な体験を通じて、実際に体験をしなければ得られない気づきがありました。特に、視覚障がい当事者のお話の中で、「障がいの有無に関わらず、いつでもすべての人に思いやりの心をもつことが大切」という言葉が、子どもたちの心に深く響きました。そして、相手の気持ちを考えて行動するきっかけとなりました。

# 三国北小学校

## 基本情報

クラス数 1クラス (38名)  
全体人数 計38名



## 目的・ねらい

障がいをもつ人たちの気持ちを理解できるようになる。  
また、その人たちのために何ができるかを考えることができる。

## 令和6年度の取組み

実施日	仔細	内容
9月20日		当事者団体によるボッチャ・卓球バレー体験
11月20日	★	ボランティアグループによる点字体験
11月27日		社協によるアイマスク体験
12月13日		当事者（視覚障がい）によるお話
12月下旬		当事者（視覚障がい）へ点字でお手紙を書いて送付する

ワーカー  
イチオシ!

## ボランティアグループによる点字体験



三国点訳グループ（ボランティアグループ）を講師に招き、点字体験を行いました。  
まず、点字や点訳の基本的な仕組みを学んだ後、点字器を使った実習を行いました。子どもたちは、点字を打つ感触を楽しみ、すぐにコツをつかんで、自分や家族の名前などを積極的に打つ姿が見られました。また、パソコンを使った点訳や、6点タイプの点字器を使うことで、簡単に点字を打てることに驚き、興味を持って取り組んでいました。さらに、身近な場所に点字が多く使われていることを知る機会にもなりました。



「点字を打つのが楽しい」という感想が多く聞かれ、点字が生活の身近なものとして感じられるようになった。

## 先生からの感想

視覚障がい者の当事者からお話を伺った後、子どもたちから「点字でお礼の手紙を書きたい」という声が上がりました。そこで、38人全員が自力で点字器を使用し、手紙を作成しました。当事者とのつながりを感じられたことに子どもたちは喜び、それが心の成長の証となりました。また、パラスポーツ体験を通じて、子どもたちは運動能力の差や障がいの有無に関係なく、誰もが楽しめるスポーツであることに気付きました。さらに、障がいがあっても努力し続ける当事者の姿を見て、相手を尊重する気持ちが育れました。

# 雄島小学校

## 基本情報

クラス数 2クラス  
(1クラス人数 18・19名)  
全体人数 計37名



## 目的・ねらい

様々な人と暮らしていく共生社会を目指し、障がいのある方との体験交流を通して当事者の気持ちや考えを知り、自分たちには何ができるかを考えられるようになる。

## 令和6年度の取組み

実施日	仔細	内容
9月20日	★	当事者（身体障がい）によるボッチャ体験
10月25日		当事者（視覚障がい）のお話
11月6日		ボランティアグループによる点字体験
12月11日		福祉教育発表

ワーカー

イチオシ!

## ボッチャ体験



当事者講師からのボッチャの説明後、投げ方のコツや戦略を覚えてもらい、試合形式で体験しました。

重度障がい者が使用するスロープ等の紹介もあり、工夫をすることで、障がいの有無に限らず、スポーツを楽しむということに、関心していました。その後の国体選手でもある講師との対戦では、歓声が体育館内に響くほど白熱しました。自然と生徒と講師の距離が近くなり、授業後には、子どもから講師の周りに集まり、話をしていたのが印象的でした。



**国体当事者選手と実際対戦し、当事者の凄さを体感できる!!**  
支援相手ではなく、活躍する当事者と共生する気持ちの育成に。

## 先生からの感想

福祉教育で当事者と対話し、当事者のさまざまな一面をみたことは、子どもにとって「障がいのある方」の印象が変わるきっかけになりました。そして、子どもは障がいがあっても工夫をすることで、一緒にスポーツができたり、生活ができるようになったのが大きな学びでした。福祉教育は体験から学ぶことが多いと思いました。そのときに、子どもが思ったことや気付いたことを大切にしてほしいです。

# 加戸小学校

## 基本情報

クラス数 1クラス (21名)

全体人数 計21名

## 目的・ねらい

福祉教育を通して、思いやりの心を育てる。いろいろな人の立場にたって考えることができる。ふくしについて興味を持つ。



## 令和6年度の取組み

実施日	仔細	内容
10月31日		認知症キャラバンメイトによる認知症サポーター養成講座 社協によるインスタントシニア体験
11月8日	★	行政・当事者（身体障がい）によるバリアフリー教室
12月16日		社協による赤い羽根共同募金講座
1月中		校内での赤い羽根共同募金活動
1月24日		当事者（視覚障がい）によるお話
1月30日		当事者団体による障がい者スポーツ体験
3月4日		福祉教育発表会（地域の大人との交流）

ワーカー

イチオシ!

## バリアフリー教室



バリアフリー教室では、車いす当事者のお話に加え、アイマスク体験、車いす体験、バスの乗降体験を行いました。車いす体験では当事者の指導の下、車いすの操作方法やコツを学び、操作が想像以上に難しく、大変であることを実感しました。さらに、中部運輸局の協力を得て、スロープ付きバスの乗降体験を実施しました。車いすやベビーカーでもスムーズに乗車できるバスがあることを学び、バリアフリーの重要性を考えることができました。



体験後、車いすを使用する友達に対して、相手の気持ちを考えて行動できた。教室で習った事・気付いた事が活かした瞬間だった。

## 先生からの感想

小学校の福祉教育で大切なのは、「ふくしとはなにか」や「ふくしに関わる人がいること」を知り、それを知った上で「自分達には何ができるのか」を考えて、行動することだと思います。将来、子どもたちにとって、「あの時に～をやった。」という記憶や経験が大切になるので、子どもたちが考えた事ややりたい事を尊重していきたいです。

# 三国中学校

学校独自の

取り組み



## 基本情報

クラス数 20クラス

(1クラス人数 約30名) 全体人数 計513名

## 目的・ねらい

三国中学校では毎年、地域とのつながりを意識した活動を大切としている。様々な活動を通して生徒たちが三国町に関心を高め、地域の一員として一人一人が将来どのようなアプローチで地元へ貢献ができるかについて考えさせることがねらいの1つである。



## 令和6年度の取り組み

実施日	方針	内容
8月12日		海岸清掃
10月～3月	★	保育園訪問
12月17日～19日		赤い羽根共同募金活動
1月29日	★	職業講演会

### 保育園訪問（みくに未来幼保園）

3年生の生徒全員が、家庭科の授業で校区内の保育園訪問を実施しています。それに向けて事前に幼児の発達段階を学習します。その後、3～5歳児の中でどの年齢層と関わりたいかについての希望をとり、クラスごとに実習のグループをつくります。幼児にとってどのような遊びをすれば喜んでくれたり集中してくれたりするのかを想像しながら、グループでおもちゃ作りやゲーム作りなどを考えて制作します。

### 職業講演会

1年生を対象に職業講演会を実施しています。様々な業種から講師を招き、仕事（労働）に対する魅力・大切さ・愛着・多様性などを伝えていきます。職業講座の1つに校区内の保育士も講師として招き、希望した生徒に講演会を実施しています。そこで学んだことを活かし、3年生で実際に校区内の保育園に出向いて体験することで生徒たちが様々な価値観を味わうことができます。



## 先生からの感想

保育実習の最初はどのように関わったら良いかが分からず、戸惑う生徒もいました。少しずつ幼児と視線を合わせることを意識し、話を聞いたり、一緒に遊んだりして心の距離を縮める様子が見られました。実習後の感想の中で、「もっと遊びたかった」「子供とどのように関わったら良いか少し分かった」など、実習することでしか分からない振り返りもあり、生徒たちが具体的な体験・経験をもとに学びを得ています。

